

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：特別養護老人ホームしおさい新館

サービス種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

地域密着型通所介護 ・ 認知症対応型通所介護

日時：令和4年4月15日（金曜日）10時00分～11時00分

場所：しおさい会議室

出席者：9人

利用者代表	0人	知見を有する者	0人
利用者家族	2人	大田市職員	2人
地域住民の代表	2人		
事業所職員（職名：施設課長 主任 リーダー）			3名

報告事項：

利用状況

- ① 入所者の人数 20名（退所1名 入所1名 定員20名）
- ② 要介護度 要介護5 11名 ・ 要介護4 8名
要介護3 1名 ・
- ③ 男女比率 男性5人 ・ 女性15人
- ④ 年齢 62歳～97歳 平均87.4歳

介護状況

- ① 起き上がり全介助 20名
- ② 胃瘻 0名
- ③ 排せつ全介助 20名
- ④ チェアインバス：ストレッチャー入浴 14名：6名
- ⑤ 肺炎入院 0名
- ⑥ 褥瘡 1名（新規入所者 病院で形成）
- ⑦ 重度拘縮 2名（看取り診断）
- ⑧ 苦情相談 0件

- ⑨ 身体拘束 0 件
- ⑩ 受診以上の介護事故 0 件

1、施設課長挨拶

現在、家族での感染や濃厚接触のため職員で休業がみられたが、影響もなく施設内感染もない。面会は窓越し面会をお願いしている。看取りの方は直接面会をしている。悪天候の際、家族に不便をかけており心苦しい。先月面会問題を解決するべく国が補助事業を設けたことから手を挙げた。良い環境で面会ができるよう準備中。

2、新型コロナウイルス感染症対応状況

	しおさいの状況	
利用者罹患	なし	
職員罹患	本人濃厚接触・感染への影響	なし
	家族濃厚接触・感染への影響	1名 学校一斉検査による職員休業
面会	窓越し面会継続中 リモート面会 1件 面会ブース整備予定（令和4年度 補助制度活用予定）	

3、サービス提供の状況

○ユニット活動

- ・大きな行事は実施していないが日常の小さな楽しみを大切にしたいと思っている。
- ・後見人さんが毎月面会にこられお誕生日をお祝いされた。若い時から生け花を楽しんでいる方にお花をプレゼントしてもらい大変喜ばれていた。
- ・神楽岡八幡宮の桜が満開になり利用者と花見に行った。
- ・入所前より編み物がお好きで今もアクリルたわしを作ってユニットで掃除の際使わせてもらっている。利用者も使ってもらおうと作る励みになると話されていた。

4、サービスへの要望、助言、質問等

(地域住民代表)

・介護4から介護3になったということは、元気になったのか。

→(施設課長)

病院から入所される方でこういうことがある。介護2から4に悪くなる人もいる。しかし、急激に介護度が悪化する人はしっかりと支援すると改善することがしばしばある。

→(地域住民代表)

こないだまで元気だったが急に悪くなって介護5になった知り合いがいる。意欲がなくなっているようだ。

→(家族代表)

父が介護3になった。認知症の症状が少し良くなっているようだ。昔はお酒が好きで・・・

→(施設課長)

できないことが大きく減る前に認知症に伴う行動心理症状が少なくなることがある。要介護認定には介護の手間の量も考慮されるため、行動心理症状が減ると手間が減って軽く判定されることもある。

(地域住民代表)

・認定期間はどれくらいですか。

→(市役所職員)

状態によるが、介護認定の有効期間は最大で4年。状態が安定している人は4年で最短は6か月。

・(家族代表)

直接面会はワクチンを3回接種したら・・・との話だったがそれからどうなったのか。

→(施設課長)

昨年の年末は落ち着いていたため直接面会を再開していた。ワクチン2回接種と県外への動きがない人を対象にしていたが、現在は市内でも広がっているのを窓越し面会でお願いしている。

しかし、次から次へと新しい株がでてくる。どう危険と評価するのか悩ましい。

国からの発信でこちらも対応していく。利用者の利便が良いところを模索していきたい。

・(地域住民代表)

イルミネーションの規模はどれくらいか。施設ボランティアはいるのか。

→(施設課長)

イルミネーションは通り沿いのフェンスと壁の一部になる。これまでは管理職一人がやっていたが忙しく取り付けが難しくなってきた。ボランティアは現在おいでになられていない。

→(地域住民代表)

近くの自治会に声をかけてみてはどうだろうか。

→(施設課長)

日頃の付き合いも大きく減っており地域密着型サービスとしては良い状況ではない。職員だけで作業するは厳しいのが実情。意見をもらったのでぜひ考えていきたい。

・(地域住民代表)

風呂の整備に補助金はでるのか。

→(施設課長)

補助制度があるときは申請をしている。

→(地域住民代表)

風呂を入れてもらえると嬉しい、助かるという声を聞く

→(施設課長)

利用者、職員からもお風呂は大事という意見があがっている。事業所全体で大切に考えていきたい。

・(市役所職員)

介護保険課として今年度は人材育成、介護給付の適正化に力を入れていく。人材育成としては、資格の取得、何事業所かに協力をお願いし、働いている姿をCM化するなどしてアピール、U・Iターンに活用したい。

5、令和4年度事業計画説明

(施設課長)

・コロナで外に出ることがなくなった。窓越し面会を厳格に行う一方で受診外出もある。職員の行動もすべて制限はできない。矛盾が生ずる場面もときにあり、職員も苦しい気持ちがある。社会情勢に即して誰からも納得できる対応となるよう、利用者の外出基準等を設けていく。

・元々睡眠が浅く、短い傾向の高齢者に対して安眠支援は非常に重要。眠りスキャンを活用して覚醒時に排泄介助を実施し安眠を支えていく。

・新人職員育成プログラムはあるが、他取組との重複点が多く見直しが必要。ベテラン職員にも研修プログラムが必要なので制度作成をしていく。

・施設行事に関しては、期待を込めてコロナ前と同じにしている。地域との接点が途切れないようにしていきたい。仁摩保育園と協力し太鼓の練習の様子などをリモート中継することも検討したい。

・重度者の増加で入浴時間作りが難しくなっている。軽度者対応の風呂はユニットフロアにあるため融通が利きやすいが、重度者向けの機材は本館と共有で午前中は使用ができず実質1日2時間程度しか使えない。限られた時間でたくさん的人数を入れることになるとケアも雑になりやすく利用者のケガにもつながりかねないしゆったりと入ってもらえない。寝たきりの方でも湯船につかる希望のない方、医療管理上できない方はユニットフロアの浴室で別の機材で入浴してもらえないかと考えている。

・現在排せつ介助は、バケツとおしぼり等を携行して各居室を回っている。容器内とはいえごみを持ち歩くため感染症のリスクがあり、臭いの問題も生じる。利用者は排せつ介助を受けた際、「情けない」「すみません」と口にされることも多い。このような情けなく感じる気持ちを様々な面から減らしていきたい。そこで、使用済みの紙オムツ等を自動でフィルム密封する機能を有するカートの導入を考えたい。密封することで触っても職員の手が汚れず臭いも出ない。ウイルス等が時間が経っても漏出しない。こういうものを使用することが地域にとっても良いのではと思う。他にも皆さんからも良い機械の情報があれば教えて欲しい。

次回予定

令和4年6月3日（金曜日）10時～11時